

忘れられない出会い

私は長い教師生活の中で様々な出会いを経験しましたが、それは私自身が成長したり、前へ進んだりするための大きなエネルギーとなりました。教職に就く人なら誰でもそれは経験することではありますが、その中でも特に忘れられない出会いをここでご紹介させていただきます。

私の教職人生の第一歩は県北の高校講師として始まりました。当時の私の役割は授業と部活動指導が主なものでした。結果からいうとまったくうまくいきませんでした。前年に東北大会へ出場していた吹奏楽部だったのに、私が指揮をしたら地区大会で落ちてしまいました。生徒ともうまくいかず退部者も続出でした。私はかなり落ち込み「教師は無理なのかな、いっそのことやめてしまおうか」と思ったほどでした。（単に自分に力が無かっただけなのですが…）何とか1年間の講師生活を終えた後、私は採用になっていた男鹿の小さな中学校へ赴任しました。この高校での一年間は後悔することばかりで、当時の生徒には今でも申し訳なく思っています。

それから15年後、私は秋田市内の中学校で音楽教師、担任、そして吹奏楽指導と忙しい日々を送っていました。おかげさまで、吹奏楽部は前年に初めて東北大会出場へ出場していて、その年は「さあ全国へ！」と周囲の期待も高まっていました。

その年の東北大会は青森県の八戸市での開催でしたが、当時の私には県外の知人が少なく、練習会場確保に苦労していました。ふと「途中の県内で練習できないだろうか」と思いつき、自分の力不足と挫折を味わったあの県北の高校にお願いしてみることにしました。

その高校へ電話してみると、偶然にも当時野球部監督でたいへんお世話になったK先生が教頭先生となっておられました。相談してみるとK先生は「あだはこの職員だった人だべ。何も気にしなくていいから遠慮なく来なさい。」という温かい言葉をいただきました。

高校に着いてみると土曜日の午後だったのにも関わらず、K先生は優しい笑顔で出迎えてくれただけでなく、運動部の練習をすべて中止にして体育館を空けてくださっていました。そして更に次のように言葉を続けました。「先生の知っている人が待ってるから」

そこへ現れたのは、私がいた当時生徒だったU君でした。U君はとても優秀な生徒で吹奏楽部の副部長を務めており、トロンボーンも上手に吹きこなす生徒でした。そのU君は国立大学へ進学し、その後なんと母校で数学の教師をしていたのでした。U君は担任や部活だけでなく、進路指導の責任者としても頑張っている、との話もK先生から聞きました。

信じられない展開に感激している私にU君は次のように話してくれたのでした。「東北大会出場おめでとうございます。やっぱり先生はすごい先生だったんですね。あの時私たちがもっと先生について行けばもっとよい演奏ができたのに、申し訳ありません。」

もちろん私は大急ぎでそれを否定して、自分こそ力不足でみんなに申し訳ない気持ちでいっぱいな

のだ、と伝えたのですがU君は首を振るばかりでした。

それ以来、私は以前にも増して部活動指導にも教科指導にも力を尽くすようになりました。当時何もしてあげられなかった生徒たちに対しての思いがそうさせたのでした。そしてこの忘れられない出会いが、その後の私の大きなエネルギーとなりました。

この年、思い出の高校で十分な練習をさせてもらったおかげで、初めての全国大会出場を果たしました。